
転生少女さやか(!?) マギカ スピンオフ 赤黄緑 in S T S

ナガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生少女さやか（！？） マギカ スピンオフ 赤黄緑 in
STS

【Nコード】

N9361Z

【作者名】

ナガン

【あらすじ】

これは転生少女（！？）さやか マギカのスピノフ作品です。
設定はさやか魔改造ものである本家を踏まえていますので、いろいろと原作とは矛盾があります。

これは、厨二病な魔法少女と純粹無垢な魔法少女と食いしん坊な魔法少女のりりカルな話。

プロローグ

ワルプルギスの夜が襲来し、その被害の復興が始まっていくばかりか経った昼過ぎ。

マミ宅では一つの戦いに終止符が打たれようとしていた。

『スターライト…ブレイカーアアア!!!』

テレビ内で。

19歳で魔法少女を騙る（かたる）ある治安維持組織のエースが、敵で身体的には大人とはいえまだ精神的にはまだ5歳の少女に特大の砲撃を行っているそのシーンをガン見しているのは、緑のワンピースを来た、ゆまという少女。

とは言っても、別にそこまで悪逆非道なシーンではないが。演出の問題で派手になっているだけである。

二重砲撃もそうであるはずだ。

「ふふっ、ゆまちゃん。そのアニメ好き？」

奥から、金髪をドリルロールで纏めた、おおよそ中学生とは思えない胸をした少女、マミがりビングにやって来る。お盆に乗せたケーキはなんとも食欲をそそり、紅茶は景気良く湯気をあげる。

「うん!!」

「そうよね。特に主人公の高町なの「やめんかマミィ!!」」

長くなりそうなマミの語りに横槍を入れた赤髪の少女。名を佐倉杏子と言う。

ポッキーをかじりながらマミにいりきたつ。

「もつ」

「もうじゃねえ。てめえまたゆまに吹き込もうとしてたな。つーかゆま。なんでそんなガン見してたんだ？アタシはそんなことしないし出来ないぞ。」

「え？出来ないの？」

「…それはボケだよな？」

「そんなことないわよ。私はただこのアニメの面白さをわかって貰いたくて…ねえちよっと聞いている？」

現在二人はマミ宅に居候中である。

杏子の最近の悩みはゆまが少し厨二病になり始めていること。

何を隠そう、家主のマミは容姿端麗、学業優秀、であるが、重度の隠れオタクであるのだ！

どうしてこうなったかは後々明かすとして、杏子はその原因が自分

にあるのではと考えている。

「それよりも、ほら、ケーキ焼いたわよ。食べましょう。」

「うん！」

「ぐっ…ああ。」

そういうアレで、杏子はママがゆまを厨二病へと引きずり込もうとするのを阻止しようと、日々戦々恐々としているが、結局は食べ物に釣られてうやむやになっている。

食い意地が…スゴいのだ。

「杏子、さやかはどうしてる？」

「さやかなら、なんだか魔法少女を元に戻すには大量の魔力がいるとか何とか言ってる、ちよっと聖杯盗ってくるっていったな。」

「盗むの!?!」

ここで、さやかとみきについて簡単に語ろう。

美樹さやか

一言で言えば神様である。

少し前に二代目^{やまがつひのかみ}八十禍津日神となった。

所謂、チートキャラである。

正に俺得。

最近はいろいろと忙しく奔走中である。

時音　みき

さやか of 魔女。

使い魔的存在である。

外見は正しく黒い初音ミク。

武器だって万能ネギ。

どうしてこうなったかは…フッ

これも俺得。

「そういえばあなた、巫女にならないか、って頼まれたって聞いたけど?」

「おま、どこでそれを…保留だ保留。アタシにやちと荷が重い。」

「そうなの? 巫女服似合うと思うんだけど…」

「やっぱそこか。」

ちなみにこの二人の活躍（比重は偏っているがな）が見たければ、
本家の方を

「露骨な催促乙。」

「ちよっと、ダメよ私が言いたかったのに。」

「それもそつちか!」

この三人は人とは違う所がある。

彼女達は”魔法少女”なのだ。

先程のアニメでは呼称として使われていたが、こちらでは、種族として使われているのが一番近いだろう。

その一貫として、彼女達はここ、三滝原周辺に出現する”魔女”を駆逐している。

「はっ!!」

マミが放つリボンが魔女を捕らえる。

「杏子!今!」

「はああああ!!」

身動きが取れないところに杏子が槍を構えて肉薄。
そのまま一刀両断した。

それが決め手となり、魔女は消滅する。

そこから出てきたGSを杏子が回収する。

「ふう」

「今の魔女。私だけだと危なかったわね。」

「ああ。まさか魔法を無効化してくるなんてね。厄介極まりなかったよ。」

二人はSG^{ソウルジェム}を取り出して、浄化を開始する。

ただし、かざすのはGS^{グリーフシート}ではなく、一枚の札。

SGから出た穢れは、札へと吸い込まれていく。

「しっかしすげーな。これ」

「確かさやかがGS換算で優に100個は越えるって言ってたわよね。」

SGは魔法少女の魔力の源。

魔法少女が魔力を使用すると、段々と濁っていく。

対するGSは魔女の核のようなものである。

魔女を倒すと手に入れることが出来、SGを浄化するのに使われている。

魔法少女達はGSを求めて、しばしば衝突を繰り返していた。

もともと、この札のおかげでそんなことはめったに無くなったが。

「キョーコ、マミお姉さん。これ…」

と、今まで会話に入って来なかったゆまが光る赤い結晶を手によっ

て来た。

「なんだそれ？」

「これは…もしかしくなくてもレリック!?…のレプリカよね。」

…お手柄よ。ゆまちゃん。」

「おい、なにくすねようとしてるんだ。」

「でもママお姉さん。これ…」

ゆまが何か言いかけた時、レリックが一際大きく輝き出す。

「うわあ!？」

「え!?!なにこのベタな展開。」

「ゆまそれ捨てる!?!」

杏子の警告も遅く、もう間に合わない。

「くっそ!?!」

三人は悲鳴と共に、この世界から消え去った。

「っ!?!杏子達の魔力が…消えた…?」

「ほむらちゃん?」

某所

「この設定で良いんじゃない?」

「ったりめーだろ!!むしろどんとこい!!」

「はやくはやく。転生させなさいよ。」

「まあそう急くな。こつちも色々と手順と言つものがあるんじゃない。」

「くうく。これでハーレムk t k rだぜ!!」

「あつ!!ずるい!!私のよ!!」

「じゃあお前、誰がハーレムメンバーだ?」

「私はノーヴェかな。」赤毛”で”勝ち気”な所が…「お前さん達。準備出来たぞ。」よっしゃ!いつでもカモン!」

「では、リリカルなのはの世界に、いつてらっしゃい!!」

「それなんて所さん!？」

「ここにも…いや、なんでもない。」

設定集

巴 マミ

15歳

頼れる先輩、と見せかけてどっぷり心酔すると、いつの間にか厨二病にされてしまうという。

厨二病さまさまである。

色々とう豆腐メンタルとか言われているけど、頑張って立ち直った。

武器はマスケット銃。とはいっても大きさは様々だが。
加えて、ボルトアクションのアンチマテリアルライフル。

佐倉 杏子

14歳？

巴家にゆまと居候している。

四六時中食べていないと落ち着かない性格。
マミの厨二病が最近うざいと感じている。

座右の銘は自業自得。

マミと同じで結構ベテラン。

さやかに巫女になれとせがまれた。

千歳　　ゆま

？歳

ロリコンホイホイ。

主に後衛を担う。

過去に虐待されていたという過去を持つ。

現在ママがこちら側に引きずろうと画策しているが、まだそういうのには疎いのが幸いして、染まっではない。

*年齢に関しては、色々矛盾が起こりそうなのだが、少なくとも10歳以下。

お札

GSの代理品。

これ一枚で100個のGSに匹敵する。

ぶっちゃんけ魔法少女はほぼ無限に魔力使い放題。

美樹　　さやか

逸般人。チート

安定のフラグを折って生還した。

おせうさま

マミとの好敵手。

赤い館に住んでるらしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9361z/>

転生少女さやか(!?) マギカ スピンオフ 赤黄緑 in S T S

2011年12月29日10時49分発行